

研究集録

令和3年度

秋田県立角館高等学校

目 次

巻頭言

校 長 佐 藤 彰 久

【Ⅰ】 校内研修

第 1 回互見月間

第 2 回互見月間

【Ⅱ】 初任者研修

理科（化学） 山 崎 真 悟

校内研修計画

報告書

指導案

感想（初任者研修を終えて）

【Ⅲ】 実践的指導力習得研修

地歴（日本史） 山 内 孝 太

指導案

研究授業スライド

研究授業資料

感想（実践的指導力習得研修 2 年目を終えて）

巻頭言

校長 佐藤彰久

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策をしながらの幕開けとなり、入学式は在校生のいない中で行われました。年間の行事も中止や内容を変更しながらの実施になるなど、思い通りには進みませんでした。そのような中、県内の県立高校には大きな変化がありました。それはICT機器の設置です。生徒一人一台端末が配付されたほか、各教室には電子黒板が備え付けられ、これまでとは違った教室の風景となりました。また、県内の3高校がICT活用推進モデル校に指定され、ICT機器を活用した「秋田の探究型授業」の実践が進められています。その1年間の成果を複数の先生方に参観してもらい、職員会議で紹介してもらいました。これらを参考にしながら、他校の取り組みを取り入れつつ、本校独自のICT機器活用方法について今後研究を進めていく必要があります。

中学校においても、一人一台端末の活用が始まっています。来年度の1年生は、中学校での活用を経て進学してきます。高校でどんな授業ができるのか、新入生は期待に胸を膨らませて入学してくるでしょう。その生徒達に何を与えるのか、どのように取りまわせるのか、思案のしどころです。このような状況下で、旧態依然とした授業が出来るでしょうか。生徒の期待を裏切ることはできません。

中高生を含めた子供たちのデジタルデバイスの使用について、日本では学校よりも家庭での使用が先行しており、しかもそれは「学び」ではなくゲームなどの「遊び」やSNSでの「通信」に活用される傾向が高いというデータがあります。生徒たちを「遊び」等の世界から解放し、このデジタル時代の情報をいかに取捨選択して「学び」の場に取り込むか、教員の腕の見せどころの時代がやってきました。学年ごとに導入しているClassiやスタディサプリをどのように活用していくのか、Google Classroomとの併用をどのように進めるのかについても今後検討していく必要があります。活用できるものをどのように活用し、より効果をあげていくのか、私たち教員の力が試されていると言っても過言ではありません。

新1年生からは、新学習指導要領が適用され、高校でも観点別評価による本格的な評価が始まります。今年度、大幅に難化した大学入学共通テストへの対応も今後求められます。また、4月からはいよいよ成年年齢が引き下げられます。このように、課題は目白押しですが、各先生方のアイデアを出し合いながら新年度を迎えたいと思います。

結びになりますが、この研究集録の原稿執筆者や編集に携わっていただいた先生方に感謝し、これまでの、そしてこれらの取り組みが本校生徒の育成に寄与することを期待しています。

令和3年度 第1回 互見月間及び校内研究授業

研修部

1 期 間 令和3年5月24日（月）～6月18日（金）

2 重点目標

教員相互に授業参観する事を通して、自らの授業を振り返り改善の手立てを考察する機会とし、個々の授業改善を図る。生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てることを目指し、「考える時間」「相談する時間」「発表する時間」を設定した学び合い授業の展開を工夫する。

3 授業参観について

- ・期間内は、必ず自教科と他教科を1クラスずつ参観すること。あらかじめ、「授業参観希望シート」を授業の担当者に渡す。

4 その他

- ・授業参観後は「授業参観メモ」を授業の担当者へ渡す。

令和3年度 第2回 互見月間及び校内研究授業

研修部

- 1 期 間 令和3年11月1日(月)～11月26日(金)
- 2 重点目標
教員相互に授業参観する事を通して、自らの授業を振り返り改善の手立てを考察する機会とし、個々の授業改善を図る。生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てることを目指し、「考える時間」「相談する時間」「発表する時間」を設定した学び合い授業の展開を工夫する。
- 3 授業参観について
・期間内は、必ず自教科と他教科を1クラスずつ参観すること。あらかじめ、「授業参観希望シート」を授業の担当者に渡す。
- 4 その他
・授業参観後は「授業参観メモ」を授業の担当者へ渡す。

令和3年度高等学校初任者研修「年間指導計画」

[第1学期]

		校外研修		校内研修				学校行事		
月	週	総合教育センター	高校教育課	重点事項	研修項目				担当者	
					一般研修	領域	担当者	教科研修		
4	1	講座Ⅰ 4/28	教職基礎 4/1	学校管理 研修	・教員としての使命感 ・本校の教育目標と学校経営 ・初任者研修の意義と進め方 ・校内組織と服務規程 ・パソコンの効果的利用法と個人情報管理	① ②	校長 指導教員	・年間学習指導計画の作成	指導教員 教科指導員	職員会議 4/ 2 始業式 4/ 5 入学式 4/ 6 課題テスト 4/ 7 PTA総会 4/30
	2					②	指導教員 研修部主任	・授業参観と研究協議Ⅰ	教科指導員	
	3					②	教頭	・学習指導案の作成①	教科指導員	
	4					②	図書・教育 情報主任	・教科指導と教育機器の活用	図書・教育 情報主任	
	5					②				
5	1	講座Ⅱ 5/12	講座Ⅱ 5/12	総務 教務 生徒指導 特別活動	・学校行事と年間計画 ・本校の教育課程 ・生徒指導の現状と課題Ⅰ ・特別活動指導の要点	②	総務主任	・授業参観と研究協議Ⅱ	教科指導員	中間考査5/19-21 交通安全教室 5/21 互見月間5/24－6/16
	2					②	教務主任 指導教員 生徒指導主事 指導教員	・示範授業①	教科指導員	
	3					③		・教材研究の方法と実際	教科指導員	
	4					②	特活主任	・研究授業と研究協議Ⅰ ・考査問題の作成と検討①	教科指導員 教科指導員	
	5					②				
6	1	講座Ⅲ 6/ 9		進路指導 学校図書館 学校管理 学年部	・本校の進路動向と進路指導の進め方 ・学校図書館の在り方と利用状況 ・諸表簿及び公文書の手引き ・学年経営とホームルーム経営の在り方	①	進路指導主事 指導教員	・評価方法と評価規準①	教科指導員	避難訓練 6/10 学校祭 6/17-19
	2					②	図書・教育 情報主任 事務長	・教材の精選と活用	教科指導員	
	3					②		・授業参観と研究協議Ⅲ ・個に応じた学習指導の工夫	教科指導員 教科指導員	
	4					②	1学年主任	・学習指導案の作成②	教科指導員	
	5					②				

1	P A 研修 7/26 (岩城少年自然の家)	特別活動	生徒会活動、部活動の指導の在り方	②	特活主任	・研究授業と研究協議Ⅱ ・導入の工夫と授業構成 ・考查問題の作成と検討② ・生徒の学力の実態把握 ・生徒理解と学習指導の工夫	教科指導員 教科指導員 教科指導員 教務主任 教科指導員	1 学期末 考查 6/28-7/1 大学模擬講義7/6 夏季補習7/26-28
2		保健	・保健室の利用状況と健康管理	②	保健主事			
3		保健	・教育相談の進め方	②	保健主事			
4								
5								
7		生徒指導	・問題行動の事例研究	③	生徒指導主事	・学習指導案の作成③ ・授業評価と授業改善①	教科指導員 教科指導員	夏季補習8/18-19 実力テスト 球技大会8/24, 25 OB・OG 講話 8/27
1	講座Ⅳ 8/5, 6	教務	・校内規定と評価	①	教務主任	・研究授業と研究協議Ⅲ	教科指導員	運動会 9/28 進路講演会9/29
2		進路指導	・キャリア教育の進め方Ⅰ	③	進路指導主事	・授業参観と研究協議Ⅳ ・示範授業②	教科指導員 理科主任	
3								
4								
5								
9		研修	・校内研修の在り方と研修体制	①	研修部主任	・授業参観と研究協議Ⅴ ・学習指導案の作成④ ・考查問題の作成と検討③	教科指導員 教科指導員 教科指導員	2 学期中間 考查 10/6-8 芸術鑑賞 10/8
1	講座Ⅶ 未定 講座Ⅷ 10/27	授業研修 10/13	・P T A の組織と運営	②	総務主任	・評価方法と評価規準② ・授業参観と研究協議Ⅵ	教科指導員 教科指導員	五 見月間11/1-26 2 年生修学旅行 11/9-12
2								
3								
4								
5								
10		総務			総務主任			
11								

[illegible]

令和3年度高等学校初任者研修「校内研修実施状況」

A 一般研修

初任者氏名 (山崎 真悟)

※指導教員が研修に同席した場合、同席の欄に○を記入する

各部	研修内容	担当者	同席	研修時間	
				時数	日数
学校管理	教員としての使命感・本校の教育目標と学校運営	校長	○	2	1
	本校の組織と服務規程	教頭	○	4	1
	諸表簿及び公文書の手引き	事務長	○	2	1
	危機管理体制とその在り方	教頭		2	1
総務部	学校行事と年間行事予定	総務主任	○	4	1
	P T Aの組織と運営	総務主任		2	1
教務部	本校の教育課程について	教務主任		4	1
	校内規定と評価	教務主任		4	1
	生徒指導要録の記入方法と取り扱い	教務主任		3	1
生徒指導部	生徒指導の現状と問題点Ⅰ	生徒指導主事		3	1
	生徒指導の現状と問題点Ⅱ	生徒指導主事		2	1
	問題行動の事例研究	生徒指導主事		5	1
特別活動部	特別活動指導の要点	特別活動主任		4	1
	生徒会活動の在り方	生徒会担当教諭		2	1
進路指導部	本校の進路動向と進路指導の進め方	進路指導主事	○	4	1
	キャリア教育の進め方Ⅰ	進路指導主事		4	1
	キャリア教育の進め方Ⅱ	キャリア国際主任		4	1
保健・特別支援教育部	保健室の利用状況と健康管理	養護教諭		2	1
	教育相談の進め方	保健・特別支援教育部主任		4	1
図書・教育情報部	パソコンの教科的利用と個人情報管理	図書・教育情報主任	○	6	1
	教科指導と教育機器の活用	図書・教育情報主任	○	6	1
	学校図書の在り方と利用状況	図書館担当		2	1
研修部	出張時の書類作成について	研修部主任	○	2	1
	初任者研修の意義と年間計画	研修部主任	○	4	2
	初任者研究を振り返って	研修部主任	○	6	1
学年部	学年経営とホームルーム経営の在り方	1 学年主任		4	1
	学級担任の実務と心構え	1 学年主任		4	1
指導者が指導に要した年間時数・日数				95	28

令和3年度 初任者研修を終えて

理科 山崎 真悟

教諭として角館高等学校に採用となってから、まもなく1年となる。授業に分掌の仕事に毎日慌ただしく過ごしていたら、いつの間にか3年生は卒業し、1・2年生の最後の授業も終わってしまった。それほどこの1年間は充実していた。初任者研修は年間を通じて行われたが、ここではその感想や感じたことを校内外に分けてまとめる。

○校内研修

校内研修は年間60日、240時間を超えて実施された。佐藤校長を始め、高橋教頭や各分掌主任の先生方からは一般研修を受けた。教育公務員としての服務や心構えのみならず、学校や学級の経営、各分掌の校内外での役割など、教員としての姿勢や具体的な職務について学ぶことができた。

教科に関しては、齋藤先生や信田先生ほか、理科の諸先生方に研究授業等で大変お世話になった。特に齋藤先生からは、教科指導員として、指導案や進度表、考査問題の作成、授業実践に至るまで非常に多くのことを学んだ。授業の組み立てや実験の工夫については、研修での成果をもとに今後も向上させたい技能である。

後述するセンター研修の一環で行われた授業実践演習では、本校の1年特進クラスを対象に、分子量を実験的に求める授業を実施した。実験の立案部分を重視するなど工夫を凝らした一方で、見えない気体の捉え方や計算については指導に課題が感じられた。淀谷指導主事や科内外の先生方からいただいた助言をもとに、今後の指導にいかしたいと考える。

○校外研修

校外研修として大きなものは、総合教育センターにて実施された研修である。教科指導についても非常に勉強になったが、生徒指導や教育相談、不登校・いじめへの理解、学級経営や特別活動など、授業外での教員の資質・能力を高めることができる研修が有益であった。

本来実施予定であった宿泊を伴うPA研修や秋田明徳館高等学校における研修は、昨今の新型コロナウイルス感染症対策のために中止もしくは所属校における課題実施型に切り替えられたが、大曲支援学校における研修は予定通り実施された。当日は高橋教頭と指導教員である大越先生の立ち会いの下、小学部から高等部まで多岐にわたる学習活動に参加した。小学部の「遊びの学習」では日常的な遊びや動きをもとに学習している様子が印象的であった。高等部の「作業実習」では地域の企業と連携した実習を行っており、実際に箱折りを体験することができた。児童生徒の真っ直ぐで一生懸命な姿をみて、自らの普段の生徒への接し方を考えさせられた。

全体を通して、多くの人と関わりながら研修を進めることができた。本校内においても、普段の雑談やちょっとした相談など、日常のコミュニケーションが円滑な業務遂行に必要であると感じた。そして、状況に応じて柔軟に対処する力がついたと感じる。1年間はあっという間であったが、この期間に感じたことを忘れずに、今後の教員人生を送りたい。

最後になるが、指導に携わっていただいた校長先生、教頭先生を始めとして、指導教員である大越先生、教科指導員の齋藤先生、そして本校の全職員の方々に感謝の気持ちを示したい。本当にありがとうございました。

第1学年 理科(化学基礎)学習指導案

実施日 2021年10月19日(火) 4校時
会 場 化学実験室
クラス 1年F組
教科書 改訂版 化学基礎(数研出版)
指導者 山崎 真悟

- 1 単元名 第2編物質の変化 第1章物質と化学反応式 1 原子量・分子量・式量
- 2 単元の目標
- ①原子量・分子量・式量の概念を理解させる。
 - ②原子量・分子量・式量の計算を習熟させる。
 - ③物質を用いた計算ができるよう指導する。
 - ④物質と粒子数、質量、体積が一定の量的関係にあることを理解させる。
 - ⑤溶液の濃度の表し方を理解させ、溶解度と再結晶についての計算ができるよう指導する。
 - ⑥化学変化について、適切な化学反応式を立てさせる。
 - ⑦物質の概念を用いて、化学変化の量的関係を理解させる。

3 指導に当たって

- (1) 単元観
- 中学校理科では水溶液の性質と、その濃さの表し方である質量パーセント濃度について粒子モデルを基に学習している。また、溶解度や再結晶についてここでは、粒子の数に基づく量の表し方である物質の概念を導入し、物質と質量、気体の体積との関係について理解させたい。また、溶液の体積と溶質の物質ととの関係を表すモル濃度について理解させたい。
- 化学反応式においては、中学校理科で学習している化学式や反応式を基に、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解させたい。化学反応式の係数比は質量比ではなく、反応に関与する物質の個数比、つまり物質比を表していることを理解させたい。

単元計画

第2編 「物質の変化」

- 第1章 物質と化学反応式 11
- ① 原子量・分子量・式量 3 (本時 3/3)
 - ② 物質 3
 - ③ 溶液の濃度、溶解度 2
 - ④ 化学反応式と物質 3

単元の評価規準

関心・意欲・態度 A	思考・判断・表現 B	観察・実験の技能 C	知識・理解 D
身の回りの物質による化学変化に興味を持ち、化学変化に関わる量的な関係を考えようとしている。	化学変化に関わる量的な関係について考え、化学反応式によって表現することができる。	分子量を測定する実験をもとに、目的を達成するために必要な実験計画の立案ができる。	原子量・分子量・式量の定義と計算方法を理解している。物質の計算を通して、化学反応の量的関係を求めることができる。

- (2) 生徒観
- 1年生の特別進学クラスであり、学習に向かう姿勢が身についている。授業内容への関心や理解度も高く、発問に対して真面目に考えることのできる生徒が多い。一方で、特定の生徒のみが発言することが多く、学習活動の形態には工夫が必要である。

- (3) 指導観
- 物質を構成する原子・分子はあまりに小さいうえに数が膨大であり、相対的な値や平均的な値をもとに量的な関係を考える単元である。微視的であるがゆえにイメージが付きにくく、多くの生徒が苦勞するところである。粒子そのものや反応をモデリングするなど、可視化したり、イメージ付けを工夫したりする必要がある。また、化学反応の量的関係を物質で表すことの有用性を感じさせたい。

4 本時の実際

(1)本時の目標

空気のみかけの分子量について、既知の気体の分子量を用いて実験的に求めることができる。

授業づくりカード②

(2)展開

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法等)
導入 10分	原子量、分子量と式量の計算を復習する。(個人) ⑤⑨	タブレット端末を用いて前時の理解度をチェックする。空気の見かけの分子量についても考えさせる。	
	発問:空気のみかけの分子量を実験的に求められないか?		
展開① 15分	学習課題:①空気のみかけの分子量を実験的に求める方法を立案する。		
	グループで相談しながら、実験計画を立案する。 ④⑧⑬⑲	分子量は分子の質量の相対値であることから、既知の物質との質量比を考えることに触れる。	グループで実験計画を立案できる。【C】
展開② 15分	学習課題:②二酸化炭素の入ったガスボンベとペットボトルとを用いて、空気は質量と二酸化炭素の質量を測定する。		
	実験を開始する。⑦	実験上の注意を伝える。試薬の扱い、および実験後の処理について説明する。	適切な手順で安全に注意して実験を行うことができる。【C】
	実験器具の片付けを行う。	実験中は机間指導を行い、安全に実験が行われるよう適宜指導する。	
整理 7分	プリントを用いて、結果をまとめ、空気の見かけの分子量を算出する。(グループ→全体) 理論値と比較する。	比の計算の考え方を確認する。	質量の比から、実験的に空気の見かけの分子量を算出することができる。【D】
	まとめ:空気と二酸化炭素の質量が測定できれば、二酸化炭素の分子量を基準にして、空気のみかけの分子量を算出することができる。		
まとめ 8分	振り返りを行う。⑭⑳	タブレット端末を用いる。 本時では体積を固定し、質量比を考えたが、ペットボトルの中には何個の二酸化炭素分子が入ったのか投げかけ、次時の物質質量への導入を図り、期待感をもたせる。㉔	

Akitaractive Eye 授業づくりカード



Akitaractive Eye 授業づくりカード

【活用例 1】

- ①授業の略案を考える。
- ②略案に沿って必要なカードを選ぶ。
- ③カードに具体的な展開を記入する。

【活用例 2】

- ①全ての（または重点的に取り組む）カードについて、いつ、どのどのような実践をしたのか記録して蓄積する。
- ②授業改善や次の単元（題材）構想に生かす。

※他にも自分なりの活用を考えてみましょう。

Akitaractive Eye 授業づくりカード 1

わくわく授業をするために

- ◇資質・能力を焦点化する

Akitaractive Eye 授業づくりカード 2

わくわく授業をするために

- ◇入念な教材研究をする

予備実験を行う。
時間や具体的な質を記録しておき、
精度を考えておく。

Akitaractive Eye 授業づくりカード 3

学びをつなげるために

- ◇教科等の特質を踏まえる

Akitaractive Eye 授業づくりカード 4

学びをつなげるために

- ◇子どもの声に耳を傾け受け止める

立案時に生徒の声を拾う。

Akitaractive Eye 授業づくりカード 5

新たな学びを出発させるために

- ◇適宜、振り返る場面を設定する

前時までに学習した原子量の求め方
(平均の計算)と分子量の計算を振り返る。

Akitaractive Eye 授業づくりカード 6

新たな学びを出発させるために

- ◇課題づくりの場を設定する

Akitaractive Eye 授業づくりカード7

ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

実験は班ごとに行う。
前時の復習と本時の振り返りはタブレットを用いて個別に行う。
個人で考える時間を設定する。

Akitaractive Eye 授業づくりカード8

ねらいに迫る授業をするために

◇効果的な学習支援を考える

実験の材料を提示し、立案を助ける。

Akitaractive Eye 授業づくりカード9

「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

原子量・分子量・式量の計算を復習する。
 CO_2 の分子量を求める。

Akitaractive Eye 授業づくりカード10

「見方・考え方」が働くようにするために

◇多様な展開を考える

Akitaractive Eye 授業づくりカード11

気づきを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する

Akitaractive Eye 授業づくりカード12

気づきを生かした展開にするために

◇想定外の反応にも柔軟に対応する

Akitaractive Eye 授業づくりカード13

問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にする

立案時の机間指導、子供の声、変容を重視する。

Akitaractive Eye 授業づくりカード14

問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇獲得した学びをまとめる場を設定する

タブレットを利用し、振り返りフォームを作成する。

Akitaractive Eye 授業づくりカード15

活用・発揮を促すために

◇学んだことが生かされる場面を設定する

Akitaractive Eye 授業づくりカード16

活用・発揮を促すために

◇振り返りから課題を引き出す

Akitaractive Eye 授業づくりカード17

学びを見取るために

◇評価方法を検討する

Akitaractive Eye 授業づくりカード18

学びを見取るために

◇授業プランを修正する

Akitaractive Eye 授業づくりカード19

学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

Akitaractive Eye 授業づくりカード20

学びの実感を促すために

◇フィードバックして働き掛ける

適宜、到達した内容と発問をフィードバックする。

Akitaractive Eye 授業づくりカード21

新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

タブレットを利用して振り返りフォームを作成し、授業の終盤で配信する。

Akitaractive Eye 授業づくりカード22

新たな学びを創り出すために

◇新たな学びが連続するようにする

気体分子の個数に着目し、次時の物質量に期待感をもたせる。

地理歴史科（日本史 B）学習指導案

日 時 令和 4 年 2 月 16 日（水）4 校時

対象クラス 2 年 EF 組 選択者 11 名

場 所 2 年 F 組教室

授 業 者 教諭 山内 孝太

使用教科書 『詳説日本史 改訂版』（山川出版社）

1 単元名

第 7 章 幕藩体制の展開 第 2 節 経済の発展

2 教材観

17 世紀は農業をはじめとした諸産業の発達、参勤交代の制度化などにより、物資や人の移動が活発化した時期である。金融制度も整い、三都を中心とした全国規模の流通ネットワークが構築された。本時は、流通経済システムの根幹である交通の発達の様相を捉えさせるとともに、これが経済面のみならず、文化の発達にも寄与するなど、多岐にわたって影響を与えたことを理解させる。その上で、近世の秋田を例として取り上げることで、地域の歴史に対する興味・関心を高めさせたい。

3 生徒観

指名した際には自分の意見をしっかりと述べるができる生徒たちである。その一方で、知識の定着が十分であるとはいえない。既習内容を踏まえた考察を苦手としている生徒も多いため、適宜振り返りながら授業を進めていく必要がある。

4 単元計画（全 4 時間）

1 農業生産の進展…1/5	3 交通の整備と発達…3/5（本時）	5 三都の発達	…5/5
2 諸産業の発達 …2/5	4 貨幣と金融 …4/5	6 商業の展開	

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度 (A)	思考・判断・表現 (B)	技能 (C)	知識・理解 (D)
17C の経済発展が社会に与えた影響を、意欲的に探究することができる。	17C の経済発展が社会に与えた影響を、既習内容を踏まえて考察できる。	資料等から 17C の経済発展の様相を読み取ることができる。	17C の経済発展の過程と社会への影響を、知識として身につけている。

6 本時の指導目標

交通の発達が政治・経済・文化などの多方面に影響を与えたことを理解させる。

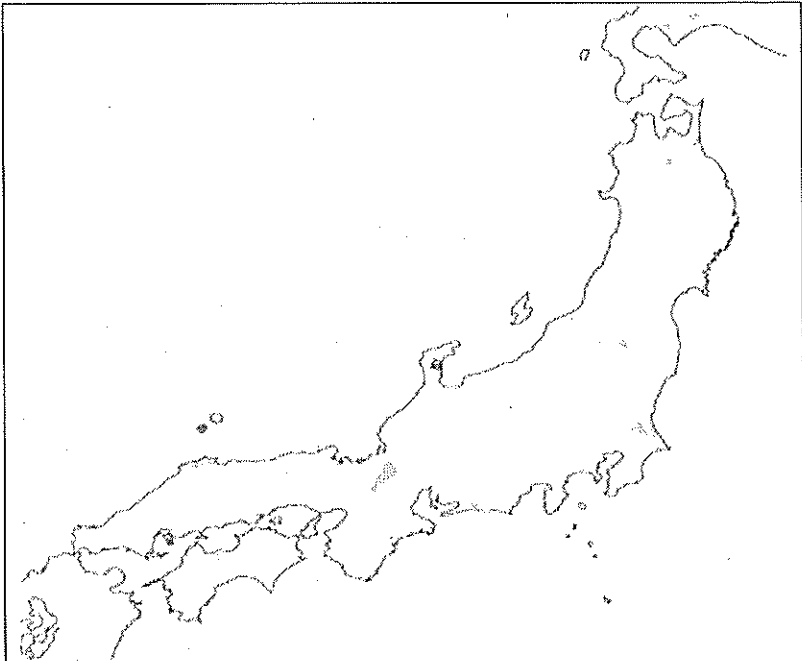
7 展開

6 指導過程(A. 関心・意欲・態度 B. 思考・判断・表現 C. 資料活用の技能 D. 知識・理解)

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5 分)	本時の学習 内容の確認	- 江戸時代の絵図と現在の地図を比較する。 - 本時の目標を記入する。	羽州街道に着目させ、現在の道路網の原型が江戸時代に出来ていたことに気付かせる。	
展開① (25 分)	陸上交通 水上交通	- 五街道を白地図に記入して確認する。 - 街道上の施設、宿場町の機能について説明を聞き、理解する。 - 廻船について説明を聞き、理解する。 「秋田街道絵巻」から土崎湊町の様子を読み取る。	- 質問を通じて既習内容を確認する。 - 秋田が北前船の寄港地であったことにふれる。	
		Q. 秋田ではどんな品物が取引されたのだろうか？ 秋田で取引された品物を予測する。	河川を利用して物資を運搬していたことに気付かせる。	
展開② (20 分)	交通の発達 による影響	Q. 交通の発達は社会をどう変えたのか？ - 交通の発達による政治面、経済面、文化面への影響をそれぞれ考察し、グループでまとめる。(個→組) - 各グループの考察を全体で共有する。	机間指導で助言する。	合理的な考察ができて いる。(B)
まとめ (5 分)	本時の振り 返り	本時の内容を自分の言葉でプリントにまとめる。	- 机間指導で助言する。 - プリントを回収してチェックし、次の授業で返却する。	

本時の目標： _____

☆五街道と航路を記入しよう



五街道

①

②

③

④

⑤

航路

①

②

□

※特定の地域を結ぶ廻船あり
ex.(), 内海船

☆街道上の施設

- () …at 城下町、()
 - () …人馬を町人、周辺の村(助郷)から挑発
 - () …伝馬役の差配、()
 - 大名飛脚→町飛脚へ、情報伝達も担う
- 宿泊施設…[() • ()]
 - 旅籠屋…一般客
 - () …大名、旗本
- () …約4kmごと
- 橋、渡船場、関所…「入り鉄砲に出女」取り締まり

☆水上交通

Q. 秋田ではどんな品物が取引されただろうか？

水上交通と陸上交通の接点＝河岸

Q. 交通の発達では社会をどう変えたか？

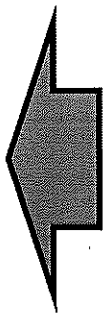
	個人	グループ
政治		
経済		
文化		

まとめ

陸上

豊臣政権による整備

→幕府へ引き継ぎ…全国的な街道の網の目



五街道…

- ・東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中
- ・江戸（日本橋）起点
- ・道中奉行が管理

脇街道…主要道路

陸上

施設

宿駅…at城下町、宿場町

→ 伝馬役…人馬を町人・周辺の村（助郷）から徴発
問屋場…伝馬役の差配、継飛脚

→ 大名飛脚→町飛脚
情報伝達も

宿泊施設…

本陣・脇本陣…大名など
旅籠屋…一般客

陸上

施設

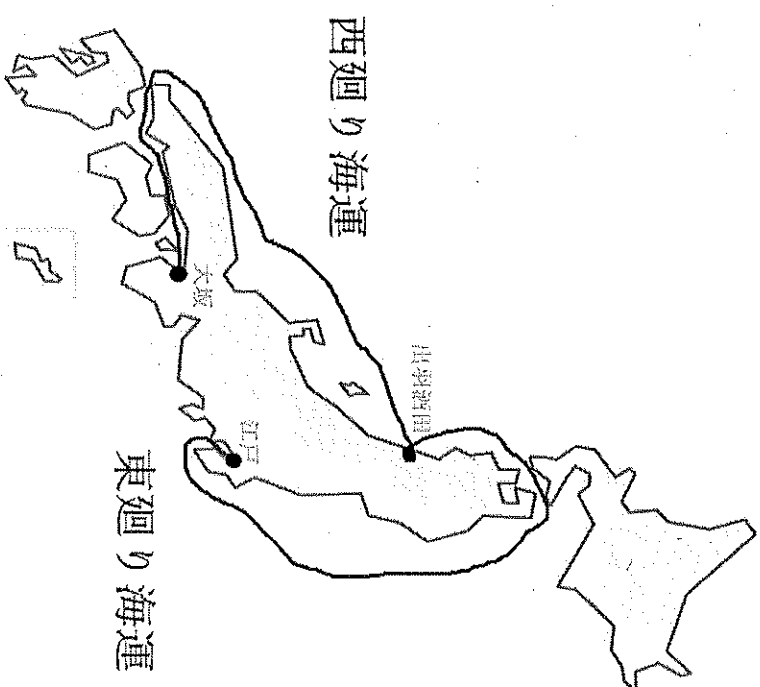
一里塚 (約4km)

橋、渡船場、関所 … 「入鉄砲に出女」 取締り

水上

海…

東廻り海運・西廻り海運整備by河村瑞賢
南海路…菱垣廻船→樽廻船（18C前半）
遠隔地を結ぶ廻船…ex. 北前船、内海船



水上

大量の物資輸送 ……年貢米中心

河川…淀川、利根川、信濃川、高瀬川、etc…

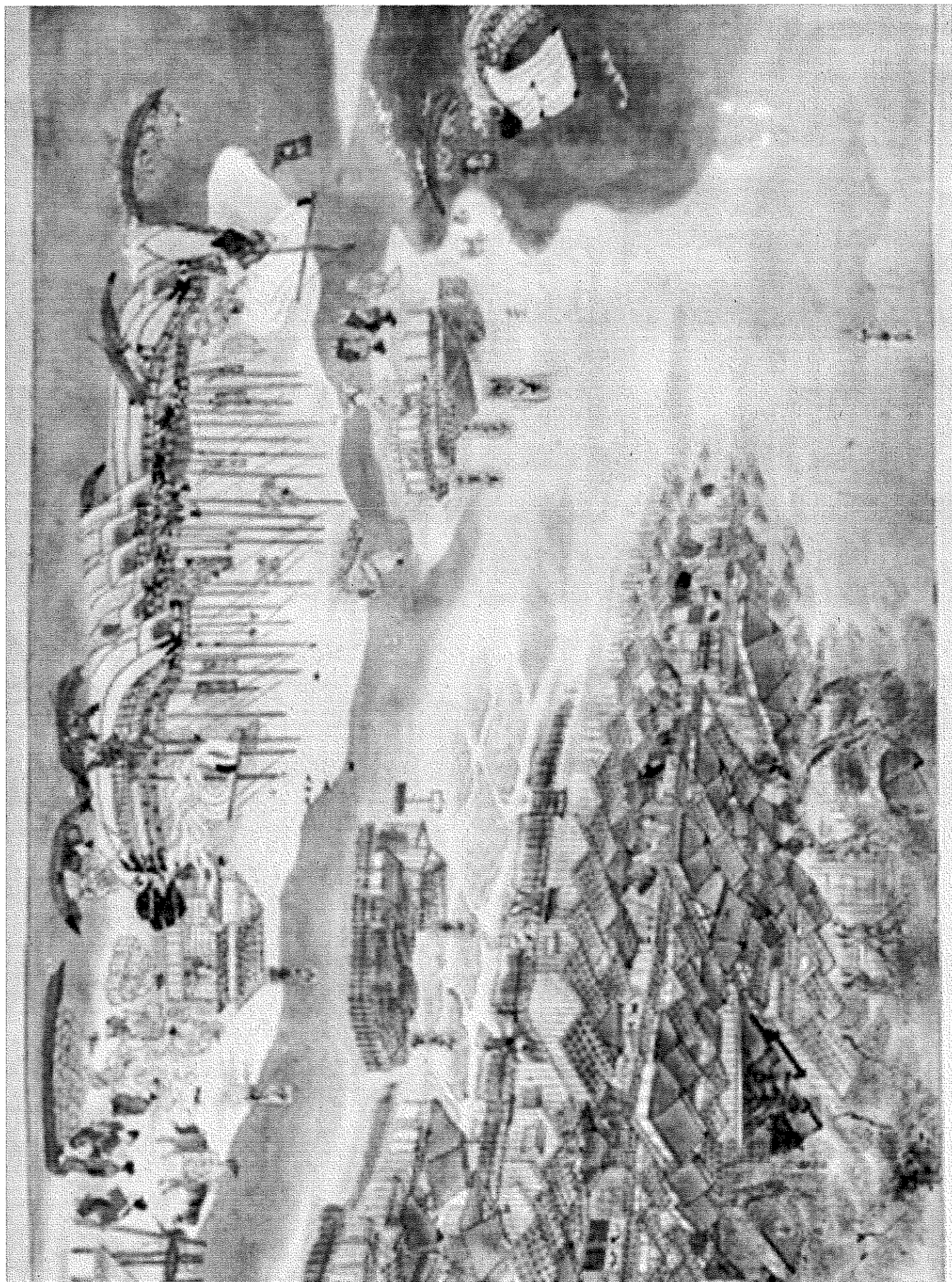


角倉了以が開削

湖沼…琵琶湖、霞ヶ浦

→河岸…水上交通と陸上交通を接続





実践的指導力習得研修(2年目)を終えて

教諭 山内 孝太

1. 研修について

昨年度から実践的指導力習得研修として、校内外で数多くの研修をさせていただいた(令和2年度:校内研修15時間、校外研修2日間、令和3年度:校内研修15時間)。ここに、研修の概略と感想を記し、報告する。

一般研修では、令和2年度の研修内容をベースとし、日頃の教育活動の中でより具体的、実践的な内容を多く学ばせていただいた。特に生徒指導や進路指導においては、卒業学年の担任として今までにない責任とやりがいを感じながら、生徒に寄り添い、誠心誠意向き合いながら指導にあたることができた。それと同時に、自分一人で抱え込まず、他の先生方と連携し組織として取り組むことの重要性を、身をもって学ぶことができた。

教科研修では、地歴公民科の先生方のみならず、他教科の先生方にも数多くご参観いただいた。地歴公民科以外の、他教科ならではの視点からのアドバイスも数多くいただくことができ、授業作成の新たな切り口を見出すことができた。目まぐるしく変化する現代社会において、本当に生徒に必要な力とは何かを見極め、身につけさせる授業のあり方を模索していきたい。次年度より新学習指導要領が実施されることとなるが、既存の授業観にとらわれることなく、日々精力的に授業改善に取り組みたい。

2. 研修を終えて

本県の教員として採用されてから早くも3年が経過した。初任者研修では教員としての心構え、基礎的・基本的知識と技能を学ばせていただき、昨年度からは学級担任を務めるなど、学校組織の一員として一層の責任を負う立場となった。2年間にわたり、初任者研修で築いた土台の上に多くのものを積み上げることができた実践的指導力習得研修は、手探りで日々の教育活動及び学校運営に携わる私にとって、大変有意義なものであった。これまでの研修内容を反芻し、今後も教育公務員としての自覚を忘れず謙虚に研鑽を継続していきたい。

最後に、研修部主任の大越先生をはじめ、お忙しい中時間を割いてご指導くださったすべての先生方にこの場をお借りし、心からの謝意を表したい。ありがとうございました。